

# ムーアカデミー通信



Aichi Kaisho Forest Center News Letter Since 2007



新緑がまぶしい季節になりました。

植物も芽吹き、木々は次々と花を咲かせています。

田んぼには水が張られ田植えが始まります。


6月にはホタルが舞います。

## 特集 海上の森はいま

写真：コアジサイ

### 企業連携覚書を締結しました

### モニタリングサイト 1000 里地調査 市民による自然調査

 **この人!** 「野鳥と親しもう」 日本野鳥の会会員 古澤穎一さん

情報ライブラリー 新着図書を紹介します

#### 『鳥のおもしろ私生活』

主に軽井沢で観察される野鳥の図鑑です。そのため、海上の森で見られない鳥も記載されていますが、野鳥の夫婦仲や子育て方法などの行動や生態が詳しく解説されているため、見慣れた野鳥の意外な一面を知ることができます。

また、鳴き声以外にも、声がしたときに梢を捜すか地面を捜すか、といった鳥の探し方や似た種の見分け方、鳥の行動についての解説も載っているので、バードウォッチングが好きな方はもちろん、これからバードウォッチングをしてみたいと考えている人にもオススメです。読み物としても楽しめる、野鳥観察が楽しくなる一冊です。

ピッキオ編著 主婦の生活社



## 特集 海上の森はいま

### 企業連携覚書を締結しました

あいち海上の森センターでは、県民の参加と協働で森林整備を進めています。その1つに海上の森を活用した企業の社会貢献活動、企業連携プロジェクトがあります。

平成23年2月23日に、6社目として有限責任監査法人



(左：トーマツ名古屋事務所長 平野善得氏  
右：あいち海上の森センター小網一壽 前所長)

トーマツと覚書を締結しました。今後3年間にわたり間伐などの



(活動の様子)

人工林整備を行い、森林の持つはたらきや森林整備の必要性について学び、ボランティア意識の向上を図る事を目的に活動

動していく予定です。

第1回目の活動は、平成23年3月13日(日)に社員やその家族45名が参加し、海上の森内の指定区域でスギやヒノキの間伐を行いました。

### モニタリングサイト 1000 里地調査 市民による自然調査

海上の森では、モニタリングサイト1000里地調査が市民の皆さんによって行われています。

モニタリングサイト1000とは、全国1000箇所のモニタリングサイト(調査地)で100年間、同じ方法で生き物や環境の情報を集め、モニタリングし保全に役立てようとする環境省のプロジェクトです。このうち、里地については日本自然保護協会が担当しており、市民参加で地域主体の保全をめざしています。

海上の森では、「海上の森モニタリングサイト1000調査の会」によって植物相、鳥類、ほ乳類、チョウ、ホタルの5つの項目の調査が行われています。

センターもほ乳類の調査を担当しています。調査はすでに4年目を迎えています。調査が蓄積され将来の保全につながることを期待します。ムーアカデミー通信でも時折にお伝えできたらと思います。



調査によって撮影されたほ乳類  
(左：ノウサギ 中央：イノシシ 右：タヌキ)

### 所長あいさつ

4月から当センターにまいりました佐竹です。

木々の緑が日ごとに増し海上の森も春を迎えています。現在、東日本大震災で多くの方々が困難な状況にあり、本当に言葉がありません。

私の海上の森との関わりは、湿地や森の調査で山の中を歩き出したのが始めです。その後、自然観察会にご一緒させていただいたり、博覧会前年や最中には、森や里の教室等で、地域の方々とお話ができるようになって嬉しかったことを思い出します。専門家の先生方を始め多くの方々にお世話になりました。

意見の相違を対立ではなく、共に活動する中で方向を模索しようと多くの方が集まった「海上の森の

会」の発足を間近で見ることができました。その後は、海上の森の仕事からは離れておりました。

当センターは、今年で開館から5年を迎えます。多くの皆様のご尽力により今日のセンターや海上の森があると思います。感謝申し上げます。

皆様の成果を引き継ぎ、海上の森の自然や地域の暮らしを大切にしたい現地のささやかで地道な取り組みに努力したいと思います。広く情報発信し、交流の輪を広げたいと思います。

人と自然の関わりのあるあり方を探求する学習と交流の拠点づくりに、県民の皆様と一緒に取り組んでまいりたいと思います。多くの皆様のご参加と、ご支援をお願いいたします。



**この人! 「野鳥と親しもう」 日本野鳥の会会員 古澤穎一さん**

野鳥との関わりは小学5年の頃、疎開先の挙母（現在の豊田市）から現在に至るまで続いています。その頃は遊び相手が魚や小鳥であり、一日中外で遊んでいました。今では禁じられていますが鳥もちや網で捕らえ、サシコ（竹ヒゴを組んで作った箱）に飼い、鳥の鳴き声を楽しんだものです。

昭和40年代後半より野鳥の飼育が制限され、その姿を写真に収めようと野鳥撮影を始めました。その頃の撮影機材は高価でしたが、今と比べると雲泥の差で、200mm レンズが大きな超望遠レンズで、フィルムは感度100であったと思います。

昭和44年から現在の天白区平針へ移り住み、緑の豊富な環境の中で野鳥撮影を楽しんできましたが、平成になって開発が急に進み、宅地のために山が潰され池が埋め立てられ、鳥たちの住み家は壊されてきました。

海上の森を初めて訪れたのは15年前になります。ここは幸いに自然環境が保たれ、水も植物の種類も豊富で、野鳥の生息する条件が充たされて

センター職員のご感想

**かたりべのひと言!****一 自然豊かな海上の森 一**

バスからちょこちょこ小さな足が沢山降りてきた。「こんにちはー」。一斉に子供達の元気な声が響き渡った。今日は瀬戸市内にある幼稚園の園外保育の日である。先生に引率されて、あいち海上の森センターの前に整列している。センターの所長が園児達に歓迎の挨拶を始めた。うららかな春の日差しの中で山桜が揺れている。今が見頃だ。園児達はこれから幼児森林体験フィールドで思い切り体を動かし、自然とのふれあいを通じて豊かな心を育ててゆく。

海上の森は瀬戸市南部にあり、名古屋からも近く交通の便の良いところである。交通機関と徒歩で行くことが出来るこれだけ規模の大きいネイチャースポットはなかなか無いであろう。そのせいかリピーターの方も多し。四季によって様々な表情を見せる海上の森。森の中を巡る歩道や林道も色々なコースがある。皆さん、こんな素晴らしい森に是非足を運んでみませんか。(N・H)

います。繁殖に限らず、渡り鳥達の羽を休める中継地、越冬地としても利用されています。

野鳥は自然の中で生活し自然を構成している生き物です。彼らは他の植物や生き物と色々な関わりを持ち自然を形作っています。野鳥の生息する環境は自然の豊かさを示すバロメーターといえます。

私たち人間もこの自然の中で恵みを受けながら生きています。そのため野鳥に親しみ、野鳥を知り、彼等を守ることは野鳥を保護することだけでなく、野鳥を取りまく自然を保護することになり、それは私達の住みやすい環境を作ることになります。「もっと野鳥と親しもう」ではありませんか。そしてこの素晴らしい「海上の森」がいつまでも保全されることを願っています。

**プロフィール** 1940年生まれ。名古屋市緑区在住。県の鳥類生息調査員、平針小学校の課外授業、環境大学の講師などとして活動中。海上の森ではモニタリングサイト1000の調査に参加、5月22日開催の調査学習会の講師を務める。

**森のなかま****モウセンゴケ** *Drosera rotundifolia***トウカイコモウセンゴケ** *Drosera tokaiensis*

湿地で見られる植物です。名前は「コケ」とありますが、コケの仲間ではありません。葉の表面には粘液を出す腺毛があり、それによって虫を捕まえて栄養にする食虫植物です。

モウセンゴケ

食虫植物というところろしげなイメージがありますが、小さな植物で、葉の長さは5~10mm位しかありません。



花は白、葉はお玉の形

6月~8月にワラビのように茎を伸ばして、モウセンゴケは白色、トウカイコモウセンゴケはピンク色の小さな花をつけます。この2種は、葉の形も微妙に異なっています。

トウカイコモウセンゴケ



花はピンク、葉はスプーン形

「森のなかま」というより「裸地・湿地のなかま」ですが、これらの様々な環境が海上の森の多様性を支えています。

## 展示の目玉

### モニタリングサイト 1000 里地調査結果

センター1階展示室奥の壁面に、モニタリングサイト 1000 里地調査を紹介する展示があります。

海上の森における鳥類、ほ乳類の調査の結果と、観察された生き物の写真が紹介されています。

海上の森で観察できる野鳥の他、夜行性のため、普段出会う機会の少ない海上の森のほ乳類についても紹介されています。



## その他のお知らせ

### ホームページ更新しました

昨年度実施した「生物多様性セミナー」「海上の森生物多様性ツアー」等で配布されたパンフレット「海上の森の生物多様性 見てある記」を、あいち海上の森センターホームページ上で見ることが出来るようになりました。

海上の森の生物多様性を支える要素を解説、観察ポイントを記載した地図もあります。新着情報の欄から掲載ページに行くことが出来、PDF ファイルとして掲載されています。

また、あいち海上の森センター概要の英語版ページも作成しました。メニューリストから閲覧出来ます。「見てある記」英語版も日本語版と同様に PDF ファイルとして掲載されています。

## 参加者募集 もりもり 集まれ!

体験学習プログラム	開催日	定員	募集期間
調査学習会 —海上の森の夏のキノコ—	7/17 (日)	50名	5/17 - 7/3
調査学習会 —海上の森の水生物—	7/31 (日)	30名	5/31 - 7/17
調査学習会 —海上の森の昆虫—	8/7 (日)	50名	6/7 - 7/24
森の教室 -森の自然探検「森のひみつ基地であそぼう」-	8/28 (日)	50名	6/28 - 8/14
里山のものづくり	20名以上の団体単位で随時受け付けます。		
海上の森生物多様性ツアー	内容等はお気軽にご相談ください。		

対象:小学生以上、小学生は保護者同伴

《応募方法》  
官製はがき、FAX または E-mail に ①参加希望プログラム名 ②住所 ③氏名 ④電話番号を記入し、申込期限(当日消印有効)までに下記の申込先へお申し込み下さい。申込多数の場合は、抽選により決定し結果を通知します。

《申込先》  
NPO 法人 海上の森の会 (〒489-0857 瀬戸市吉野町 304-1 「あいち海上の森センター」内「海上の森の会」事務局  
TEL/FAX: 0561-21-9298、E-mail: morinokai2004@kxa.biglobe.ne.jp)

## 予告!! 「あいち海上の森大学」7月開講予定

毎年開講の「森林再生コース」「国際交流コース」に、新たに「国際協力コース」を加え現在開校準備中。6月に受講生の募集を行います。

\* 詳細については、決まり次第ホームページ等でお知らせします。

### 編集後記

暖かくなるにつれて、昆虫やトカゲが次々と姿を現し、植物は若葉を広げて花を咲かせています。生き物にとっては当たり前のことなのかもしれませんが、一つ一つに感動を覚えます。

編集・発行 あいち海上の森センター(ムーアカデミー)

発行日 平成 23 年 5 月 24 日

〒489-0857 瀬戸市吉野町 304-1

TEL: 0561-86-0606 FAX: 0561-85-1841

E-mail: kaisho@pref.aichi.lg.jp

URL: <http://www.pref.aichi.jp/kaisho/>

